

自分なりの感性や想像力を働かせて、文字の形の特徴を生かした顔の表情を工夫し、それに合った言葉を添える活動を通して表現力を高める授業

第1学年4組 美術科学習指導案

指導者 教諭 杉本 節子

1 題材名 **OUR FACES** ～アルファベットの文字で顔をつくってみよう～

2 目標

- 文字の形やそれを組み合わせた形の面白さに気付き、感じたことや考えたことを基に、いろいろな顔の表情をつくろうとする。 (美術への関心・意欲・態度)
- 自分なりの感性や想像力を働かせて、感じたことや考えたことを基に文字を組み合わせた顔の表情の構想を練ることができる。 (発想や構想の能力)
- 自分なりの感性や想像力を働かせて、文字の形がもつ特徴を生かして、創意工夫しながら文字の形を組み合わせることができる。 (創造的な技能)
- 自分なりの感性や想像力を働かせて、友人の作品のよさや面白さに気付き、見方や感じ方を広げることができる。 (鑑賞の能力)

3 指導に当たって

本題材は、自分なりの感性や想像力を働かせてアルファベット文字を組み合わせて、できた表情から受ける感じに合った言葉を添える活動を通して、文字を組み合わせた形の面白さを生かして創意工夫しながら表現することや友人の作品のよさに気付き、見方や感じ方を広げることがねらいとしている。文字の形の特徴や面白さから自分なりにイメージしていろいろな表情をつくり、その表情に合った言葉を考えて、話し合ったり伝え合ったりすることで、思考・判断し表現する力を育成できると考える。

本学級の生徒は、小学校で文字や図柄を組み合わせたポスターの学習をしている。また、中学校に入学してから文字のデザインで書体の基本を学習している。さらに英語でアルファベットを学習して文字を「読むもの」として認識している。しかし、小学校の頃は「形」として捉えていたと思われる。事前アンケートの結果は、下表のとおりである。

(平成23年6月2日 第1学年4組 35人実施)

○ 図画工作の授業で何をするのが好きでしたか。			
・ 紙や木、砂などをもとにしてつくる。	はい 28人	いいえ 2人	どちらでもない 5人
・ 自分の表したいことを絵や工作でつくる。	はい 29人	いいえ 0人	どちらでもない 6人
・ 作品を見て話し合う。	はい 23人	いいえ 5人	どちらでもない 7人
○ 顔文字を使ったことがありますか。	はい 28人	いいえ 7人	
○ 自分でつくったことがありますか。	はい 4人	いいえ 31人	

小学校での図画工作の学習には積極的に取り組んでいた。また、顔文字は全員が知っていたが使ったことのある生徒も1～3種類である。自分でつくことは考えていない。

そこで、この題材では生徒にとって身近なアルファベットの文字を使い、携帯メールやメモに添えて短い文や言葉だけでは伝えきれない気持ちを表すための顔文字の要素を取り入れてみた。顔文字を友人や家族とやり取りをした経験や参考資料などから、一つの形では感じなかったものが集めたり組み合わせたりすることで、そこから顔の表情が生まれることに気付かせたい。その表情から感じたことや考えたことを自分なりにイメージして言葉を添え、話し合い伝え合うことで思考力や判断力を高める場を設けていきたい。

4 指導計画と評価計画 (4時間取扱い) 本時は第1時

次	時	本時の目標	評価の観点				評価規準	言語活動の充実を図るための手立て	
			関	発	表	鑑	方法		
1	1	文字の形に心を込めて、自分なりの感性や想像力を働かせ、考えたことを基に顔文字の構想を練る。	◎	◎			観察 作品 話し合い	感じたことや考えたことを組み合わせた顔の構想を練っている。	気付きや感じ方を話し合う場を設ける。

2	1 2	特徴文をた 文意を言 字を工の葉 の生夫形イ 形かしを添 がしな組一 もてがみ つ、らしこ ○ ◎	作品観察 伝え合い	文字の形を 特徴を組 つてなを 文特創ら 字徴創ら のを意文 形生工字 がか夫の もしし形 感た場	て、え 考合 しや 通と をを 作た 感じ をを 感た
3	1	友や、広 人面見 の白方 作さや 品の感 の気が よ付方 ◎	観察発 表ワーク シート	友人の面 や、を よさ付 気感じ のにや 品さ方 作白見 の面、 友さや よ気感	合や合 せよし 見のよ 互いの を話を 白さを い、面 面う。

5 本時の学習

(1) 目標

文字を組み合わせて顔をつくりだす活動を通して、文字の形に関心をもち、自分なりの感性や想像力を働かせて、感じたことや考えたことを基に文字を組み合わせた顔の表情の構想を練ることができる。

(2) 準備・資料

参考資料，アルファベット文字，台紙，マス目入り用紙，デジタルカメラ

(3) 展開 (○は知識・技能の習得，◎は言語活動の充実を図るための手立て)

学習活動・内容	時間	指導の留意点 (評は評価規準)
1 本時の課題をつかむ。 (1) 顔文字の資料 (2) 「へのへのもへじ」		・ 顔文字を使った経験や「へのへのもへじ」を思い浮かべることで、本時の学習を身近に感じさせ、活動への関心を高める。 ・ 携帯電話の顔文字を使って簡単な顔をつくり、表情の変化に気付くようにする。
OUR FACES ～アルファベットの文字で顔をつくってみよう～		
2 いろいろな顔の表情をつくりだす。 (1) 自分で顔の輪郭の文字を決める。 (2) 文字を組み合わせる。 (3) 表情に付け加えたい言葉を決める。 (4) 残しておきたい顔があったらメモしたりデジタルカメラに撮ったりする。	7	・ 4人のグループで、自分が感じたり考えたりしたことをつぶやきながら活動し、友人に見せたときの反応を確かめながら表情を探っていくことができるようにする。 ・ 顔の輪郭の文字に使うには難しいものもあるので、「O, U, R」から選ぶようにする。 ◎ 文字を組み合わせた表情がもたらす感情に気付き、自分なりにイメージして、顔につけ加える言葉を書き込むことができるようにマス目入りの用紙を用意する。 ○ 文字の形がもつ特徴を生かして、創意工夫できるように、残しておきたい表情はデジタルカメラで保存しておき、思い付くままに次の表情を工夫できるようにする。 ・ 仕上がりは縮小して印刷し、綴じ込んで見ることができるようになるが、細かい手先の作業が苦手な生徒もいるので、制作はA3の大きさで行う。 ◎ 気付きや感じ取ったことを作品化することができるようにアルファベットの文字を多めに用意しておく。 ・ 顔ができていく過程で、自然に友人に見せたり話しかけたりする活動を大切にしたい。 ◎ 感じたことや考えたことを基に文字を組み合わせた顔の表情の構想を練っている。 【発想や構想の能力】(観察，作品，話し合い) ・ 何枚かのデジタルカメラの画像を写して、本時の活動を振り返り、次時の活動への意欲につなげる。 ・ つくりだした表情を台紙に貼り、添える言葉を読みやすく描くことを伝える。
3 本時の活動を振り返る。	4 0	
4 次時の活動内容を確認する。		